

官庁統計のよりよき活用のために

東洋経済新報社編集局次長

齋 藤 健 一

「昭和初期の百円が、いまどのくらいの価値になっているか」「日本の会社数はどの位あるのか」「基準年次が新しく55年基準に変更されたが、過去のデータと接続させるにはどうしたらよいか……」

当社は、経済統計に関する各種の刊行物を発行しているせいか、さまざまな問い合わせが舞いこんでくる。この種のものにはできるかぎり親切に答えているが、なかには「卒論に使いたい、各国の輸出入額を知りたい」という問い合わせについては、たとえすぐに答えられることでも、「図書館へ行って自分で調べなさい」と返事することになっている。

ところで、この種の問い合わせのなかには、統計利用者側の無理解、無知識というものがかなり多い。それも、一流大企業の調査部や企画部の人間であるというケースもしばしば。先日もGNP統計に関してこんな問い合わせがあった。すなわち、「国民総生産の数字をあなたのところで発行している刊行物でひろって見たが、別の官庁から発表されている数字とつき合わせたところ、かなり間違いがある……」

そこで、念入りに調べたところ、間違っているようなフシはない。どうも利用者側のほうに問題がありそうだ。改めて、「あなたの利用している〇〇官庁統計は何年版のものか」と聞くと、二、三年前に発行されたものだという。問い合わせした本人にとってみれば、いったん発表された官庁統計は、絶対に間違いのないものだと思いこんでいるから仕先に困る。

GNP統計（新SNA）が、工業統計表や家計

調査、商業統計など、多くの統計をもとに積み上げ推計されたもの、原データが訂正されれば、GNP統計も変更されること、しかもしばしばそ及訂正されることを説明してようやく納得してもらう。

このように統計利用者側が、この辺の事情を知っていればなんでもないことが、意外と多い。このほか、センサス統計と抽出調査の違いをはじめ、原数値と季節調整値、暦年と年度、名目と実質といった違いなどが案外と理解されていないようだ。

生産指数や機械受注などは季節調整値が一般に利用されているのであるが、この季節調整値を合計して、すでに発表されている暦年や年度の数値とくい違うため、つまらないいかりをつけられることも多い。

このほか、よく引き合いにだされるのが各国の失業率の比較。わが国の失業率は2%台と少ないのに、欧米では7%~10%ときわめて高い。だから日本の雇用情勢が格段にすぐれているといった論評がしばしば見受けられる。たしかに失業数や失業率は各国より低いのかも知れないが、失業という概念規定では各国とも大きくちがっており、それらを考慮しないで単純に比較するのはきわめて危険といわざるを得ない。そうした意味からも統計利用者側のレベルアップがいまこそ求められるときはない。

わが国の統計は、その調査方法や内容といい、世界でも一、二位を争う統計先進国となった。また、経済白書をはじめ、各種の白書類が刊行されて、統計が広く国民のなかで利用されるようにな

っている。マスコミでも実質成長率とか物価上昇率といった動向が逐次紹介されるようになり、官庁統計の普及に大いに役だっている。

この点ではきわめて喜ばしいことであり、今後とも一層推進されることが望ましい。しかし、統計の利用が普及した割合には、利用する側のレベルがそれに伴っていないのが現状であり、行政側でもその点を十分留意する必要がある。

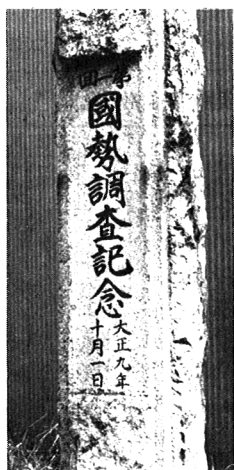
同時に、統計を作成する側、とりわけ行政側でも、もっと統計そのものを改善する余地がありはしないだろうか。私たちは官公庁から発表されている数多くの統計に接することが多いだけにそのことを痛感する。すなわち、作成されている表は10年1日のごとく同じ体裁のものがきわめて多く、その解説も無味乾燥、紋切りがたのものとなっているものが少なくない。

この点では統計が利用されようと、利用されまいと、決められたルールでまとめられ、それが速

報なり、刊行物なりに発表されれば行政側では一応は責任を果たしたことになるのではないだろうか。

このほか統計の表題でも、「何々の何の、そして何々の」といった形容詞がやたらとついた（統計の中身を厳格に表現するためとみられるが…）、一体なにをまとめた統計なのか分からないものが少なくない。同様に、統計の項目でも、一見しただけではピンとこないようなものも多い。長い間、数多くの官公庁統計に接してきた私たちですら、すぐに理解できないとすれば、一般の利用者にとってはどうであろうか。

戦後のわが国統計の発達には、今日のような日本経済の発展に大きく寄与したものと思われる。国や地方自治体がぼう大な予算を使い、苦労して作成された統計であるだけに各種の研究や企業、一般の国民に広く利用されるよう、更に一層の改善がのぞまれるところである。



坂手町の記念碑

第1回国勢調査の記念碑 水海道市で発見!!

大正9年に行われた第1回国勢調査を記念して建てられた石碑が、水海道市で2か所に見つかりました。彫り込まれていた文字が関係者の手で赤く着色され、近くの人々の関心と呼んでいます。

この石碑が見つかったのは、水海道市坂手町の農協倉庫わきと大塚戸町の分校跡。いずれもみかげ石製。大塚戸町のもは、「記念」の文字が「紀念」となっています。

他の市町村にもこのような記念碑等がありましたら編集部までご連絡下さい。



大塚戸町の記念碑